

# 病虫害発生予察情報

令和5年8月31日

## 病虫害発生予察情報（飛騨地域） 9月予報

9月は台風や秋雨前線による長雨や高温からの気温低下等気象変動が大きい月です。ほ場の衛生管理と適期作業・適期防除に心がけ、病虫害の発生を最小限に抑えましょう。

**【水 稲】** たかやまもち等の早生品種では収穫期となっているので、収穫の遅いコシヒカリ等でもち病やウンカ類の防除を実施する場合は、農薬の飛散防止に努め、収穫前日数等の使用基準を確認しましょう。

**【果 樹】** 気温が高いとカメムシ類やシンクイムシ類の発生が長引く可能性があるため、動向を見て必要な防除を実施しましょう。

**【野 菜】** 気温が低下するとハウレンソウのケナガコナダニやべと病、トマトの灰色かび病や疫病の発生、急増が懸念されますので、予防防除に努めましょう。

今年度問題となった病虫害は、次年度の防除計画に役立てるために実態を把握しておきましょう!!

○主な病虫害の発生状況及び今後の予測（9月） ↓ 防除時期

病虫害名 発生量	発生消長の一例・防除時期の目安									防除上の注意事項等	
	9月						10月				
	1半旬	2半旬	3半旬	4半旬	5半旬	6半旬	1半旬	2半旬	3半旬		
水 稲	穂いもち	たかやまもち収穫									早生品種の収穫時期となるため、飛散防止に努める。防除適期はすぎているため、多発ほ場のみ防除を実施する。
	発生量: 並				コシヒカリ収穫						
	ウンカ類	多発時のみ防除									
果 樹	果樹カメムシ類	予察灯への誘殺量 ↓									9月中旬を過ぎると夜温が低いため、予察灯にはほとんど誘殺されなくなる。クサギカメムシは10月頃から越冬のために家屋に飛来するため、昼間に見られる場合が多くなる。
	発生量: やや多	フェロモントラップの誘殺量 ↑									
	シンクイムシ類	感染リスク ↓									
野 菜 全 般	リンゴ斑点落葉病	フェロモントラップへの誘殺消長 ↓									春から秋まで長期にわたり発生する病気であるが、最終防除は、9月中旬頃で褐斑病等の他の病害と合わせて防除する。
	発生量: 並	フェロモントラップへの誘殺消長 ↓									
	タバコガ類	フェロモントラップへの誘殺消長 ↓									
野 菜 全 般	ヨトウムシ	黄色水盤による誘殺量 ↑									フェロモントラップへの誘殺は、9月が多い。生長点付近等の上段に産卵するため、誘引作業等の管理作業で幼虫を確認しやすい。幼虫を見つけたら（若齢幼虫期）に薬剤防除を行う。成虫の発生は、4~5月、8月中旬~9月頃である。1~2 齢幼虫は集団で摂食するが、3 齢の頃から分散して単独で生活するようになるので、早期発見が重要。
	発生量: 並	フェロモントラップへの誘殺消長 ↓									
	アブラムシ類	フェロモントラップへの誘殺消長 ↓									
野 菜 全 般	発生量: 並	フェロモントラップへの誘殺消長 ↓									定植時等の粒剤散布により1か月程度は抑制できる。その後は、発生を確認したら防除を実施する。
	発生量: 並	フェロモントラップへの誘殺消長 ↓									

病害虫名 発生量	発生消長の一例・防除時期の目安									防除上の注意事項等	
	9月						10月				
	1半旬	2半旬	3半旬	4半旬	5半旬	6半旬	1半旬	2半旬	3半旬		
ハウレンソウ	べと病	← 定期防除 →									発生すると感染スピードが早く、発生後の防除は困難になるので、予防防除に努める。 平均気温が20℃を下回る9月中旬頃から注意が必要である。
	発生量:並	↑ 感染リスク									
	コナダニ類	被害発生リスク ↓									
トマト	発生量:並	← 定期防除 →									餌となる有機物の多用は避ける。 乾燥条件を嫌うので、土壌が乾燥するハウスは、ハウレンソウに寄生する傾向が強く、被害が出やすい。
	灰色かび病	ハウスでの発生量 ↓									
	疫病	↓ 感染リスク									
発生量:並	↓									台風でビニールがめくれて雨にあたりると発病するリスクは高くなる。また、締めきった状態では、急激に蔓延することがある。	

### \*\*\* ヨトウムシ(ヨトウガ) \*\*\*

幼虫の食性は極めて広くイネ科以外のほとんどの作物を加害し、キャベツ、ハクサイ等のアブラナ科野菜で被害が大きく、飛騨地域ではハウレンソウ等にも発生する害虫ですが、これまで発生時期等の詳細な把握ができていませんでした。そのため、フェロモントラップによる発生消長の調査を実施しています。

幼虫期の低温短日条件で誘起される蛹期の冬休眠のほか、高温長日条件で誘起される蛹期の夏休眠があり、日本のほとんどの地域で春と秋に年2回発生すると言われています。部分的には夏にも発生し、見かけ上年3回発生する地域もあり、今年の飛騨地域におけるフェロモントラップの調査では、夏（7月）に少量誘殺されています。（下記グラフ参照）



ヨトウガ成虫



フェロモントラップに誘殺された成虫 →



←ナスの葉裏にいた1齢幼虫の集団



### 東海地方1か月予報(9/2~10/1) 名古屋地方气象台 8月31日発表

向こう1か月の気温は高いでしょう。降水量は平年並が多く、日照時間は平年並が少ない見込みです。期間の前半は、気温がかなり高くなる見込みですが、その後は湿った空気の影響を受けやすいため、雲が広がりやすく雨の降る日もあり、後半の天気は、数日の周期で変わってでしょう。

岐阜県病害虫防除所では、この他に病害虫の詳細な調査データをホームページにて公開しています。(トップページQRコード→)

<https://www.pref.gifu.lg.jp/page/2934.html>

飛騨支所 〒506-8688 高山市上岡本町 7-468

TEL (0577) 33-1111(内線 245) FAX (0577) 34-2706



トップページ